



小平は水が乏しく、ほとんど水田が作れなかったので、畑で小麦などを育てていました。小麦からうどんが作られ、今もうどんは小平の郷土料理として食べられています。地域で作られていたうどんを武蔵野手打ちうどんとして名づけたのは、鈴木遺跡の発見で重要な役割を果たした加藤有次さんです。



鈴木遺跡から見つかった黒曜石は、鈴木遺跡資料館で見ることができるよう。4か所の産地に分類した展示もあるので、産地ごとの特徴を見比べることができるよ。実際の黒曜石は写真よりも輝いているよ！ぜひ、資料館に見に来てね！



鈴木遺跡発掘50周年記念

小平は水が乏しい場所だったので、大昔の人々の生活や活動の跡が残されている遺跡が少ないところ。今からちょうど50年前の1974年、石神井川の源流にあたる鈴木小学校の周辺で鈴木遺跡の発掘調査がはじまりました。今回はどのようにして発掘調査が行われることになったのか、ぶるべーと学芸員と一緒にみていきましょう。詳しくは、小平市☎(ID72847)からもご覧になれます。図文化スポーツ課☎042(346)9501

学芸員の
スズキさん

ぶるべー

時代の長さを数直線で表すと、こんな感じになるんだ

後期旧石器時代がとて長かったことが分かるね！



鈴木遺跡発掘の年表

国史跡とは、日本国内の遺跡のうち、日本の歴史を正しく理解するうえで欠かせない学術的価値をもつ重要なものを史跡として指定し保存を図って後世に引き継ぐ制度です。具体例として有名なものは、青森県の「三内丸山遺跡」（縄文時代）、佐賀県の「吉野ヶ里遺跡」（弥生時代）、近隣では西東京市の「下野谷遺跡」（縄文時代）などがあります。

3年前（2021年）国史跡に指定

12年前（2012年）東京都史跡に指定

26年前（1998年）
鈴木遺跡資料館が現在地に移転

41年前（1983年）
小平市史跡第2号に指定

43年前（1981年）
鈴木遺跡資料館（旧）開館

49年前（1975年）発掘調査の成果を公表

50年前（1974年8月）発掘調査開始（④）

50年前（1974年7月1日）
試掘調査で旧石器が発見される（③）

50年前（1974年）
鈴木小学校の工事が開始（②）

57年前（1967年）
旧石器時代の石器が発見され「回田遺跡」として報告される（①）

現代／縄文時代



16,000年前

後期旧石器時代

38,000年前

鈴木遺跡から出土した黒曜石の産地

鈴木遺跡からは、黒曜石という黒い半透明の天然のガラスでつくられた石器が多数出土しています（写真1）。黒曜石は、割り取った破片の縁がとて鋭くなることから、旧石器時代の人々はこの性質を利用し、石器を製作していました。

黒曜石は、火山が噴火し地表に吹き出た溶岩が急激に冷やされるとできる岩石です。そのため、すぐ近くに火山のない鈴木遺跡から出土した黒曜石は、遠くの黒曜石産地から持ち込まれたものといえます。

黒曜石の主成分はガラスと同じケイ素ですが、不純物が混じっており、その構成は産地ごとに違っています。この性質を利用し、鈴木遺跡から出土した黒曜石を分析した結果、①ハヶ岳山麓（男女倉・小深沢・星ヶ塔・麦草峠）、②日光・那須山地（高原山）、③伊豆・箱根地域（畑宿・柏峠）、④伊豆諸島（神津島）でとれる黒曜石でした（図1）。

いずれも鈴木遺跡からはるか遠方で、特に神津島は海を渡る必要があります。当時の人々は産地への往復の苦労と危険を冒してでも、切れ味の良い石器を作ることができる黒曜石を入手したかったようです。



写真1



図1

鈴木遺跡発掘50周年記念イベント

図文化スポーツ課☎042(346)9501、☒bunkazai@city.kodaira.lg.jp

鈴木遺跡発掘50周年記念講演会 （東京文化財ウィーク2024）

旧石器時代の焼石調理と鈴木遺跡の生活

身延大学の保坂康夫さんが、旧石器時代の人々が何を食べていたのかを、鈴木遺跡出土の燂群を含めた分析から、科学的に調査した最新の研究成果を解説します。

☒10月5日（土） 午後2時～4時 1時30分開場
場中央図書館3階視聴覚室
☒80人
☒当日、会場へ（先着順）



こだいら遺跡ウォーク 国史跡鈴木遺跡をあるく

鈴木遺跡の周辺（鈴木遺跡資料館－鈴木遺跡保存区－コゲラの森－ハ小遺跡－鈴木遺跡保存管理用地）を、学芸員の解説を聞きながら歩きます。

☒10月26日（土） 午後1時30分～4時 1時から受付
☒市内在住の方（親子で参加可） ☒20人
☒10月4日（金）まで（必着）に、電子メールで住所、氏名、電話番号を入力のうえ、問合せ先へ（申込み多数の場合は抽選し、結果を10月11日（金）までに全員に通知）

鈴木遺跡発掘50周年記念企画展 鈴木遺跡の発掘調査

50年前の発掘調査の様子を中心に、写真パネル展で紹介します。

☒▷10月28日（月）～11月8日（金） 市役所1階ロビー
※土曜日は午後0時15分まで。日曜日、祝日を除く。
▷11月13日（水）～令和7年2月2日（日） 午前10時～午後4時 鈴木遺跡資料館
※鈴木遺跡資料館の開館日は、下記を参照してください。



錦城高等学校映画研究部制作

「温故知新～鈴木遺跡と私たち～」

錦城高等学校映画研究部が、鈴木遺跡に関わる人の想いなどを高校生の視点でまとめた作品を制作しました。小平市公式YouTube（右図QRコード）からご覧になれます。



鈴木遺跡が発掘されるまで

①旧石器時代の石器を発見

中学校の先生であり、考古学（発掘調査で歴史を調べる）研究を行っていた大沢篤邇さんが、石神井川の源流だったと考えられる場所から石器を見つけました。その情報を、武蔵野郷土館（現在の江戸東京たてもの園）の考古学研究者の吉田格さんに提供し、1967年に東京学芸大学考古学クラブと一緒に調査が行われました。その結果、旧石器時代の石器が見つかったと報告されました。当初は鈴木遺跡ではなく「回田遺跡」と呼んでいました。



②鈴木小学校が 鈴木遺跡発掘調査のきっかけに

1974年に、鈴木小学校建設のために地面を掘っていたところ、未知の空洞が見つかりました。この空洞について、市内在住の文化財保護審議委員であり、國學院大学助教授の加藤有次さんに相談すると、この場所に遺跡があるかを調べる試掘調査を行うべきだと指摘されました。



③鈴木小学校建設を中断し、 試掘調査へ

工事を中断して、1974年6月29日から7月1日までの3日間で試掘調査を実施しました。最終日に、焼けた石（燂）や石器が鈴木小学校建設予定地から発見されたことから、鈴木遺跡と名付けられました。



発見された石器



740701は石器が発見された日付だよ。

「すごい」

④試掘調査から発掘調査へ

1974年の8月から1975年9月までという短期間で本格調査が行われ、12枚の文化層が確認されました（右写真参照）。これにより、それまであいまいだった南関東地方の後期旧石器時代の石器の形の変化や、石器の種類の組み合わせの移り変わりが明らかになりました。※文化層とは、同じ時期に住んでいた人の生活の跡のことで、石器を作る際に破片が飛び散った跡や、料理に使った焼けた石などが、ひろがりをもって見つかる層状の出土品のまとまりなどを指します。これ以降、鈴木小学校西側の新小井街道などでも発掘調査が行われてきました。

◆未知の空洞の真相

②で見つかった未知の空洞は、江戸時代に使われていた水車を回すための、水を流すトンネル状の水路（胎内堀）でした。1970年ごろは、江戸時代のことを考古学の研究対象とすることがまだ一般的でなかったため、この記録も重要な成果の一つといえます。



石器が出土した地層と12枚の文化層の見つかった深さ

鈴木遺跡の魅力

旧石器時代の人々が石神井川の源流部で次々と生活していたために、鈴木遺跡は規模が大きく、日本の後期旧石器時代の約22,000年間の時々で使われた、たくさんの貴重な出土品が見つっています。

それまで、江戸時代に玉川上水が掘られてから小平に人が住みはじめたと考えられてきました。しかし、鈴木遺跡の発見によって、旧石器時代にも人が住んでいたことが分かりました。よって、鈴木遺跡は小平の歴史にとって、重要な遺跡です。さらに、1つの遺跡の中で12枚もの文化層が見つかったこ

とから、石器の変遷が明らかとなりました。これは後期旧石器時代の指標になるため、日本の歴史、特に南関東の後期旧石器時代を知るうえで大変重要な遺跡として、令和3年に国史跡に指定されました。今後は鈴木遺跡の当時の景観を体験できるような広場を目指して整備する予定です。



鈴木遺跡のことがよく分かったよ！ありがとう！